「WOWOW 辰巳放送センター」訪問レポート

神谷　直亮

11 月 23 日に行われた日本衛星ビジネス協会主催の施設見学会で、WOWOW 辰巳放送センター（東京都江東区）を訪問する機会に恵まれた。1991 年に日本初の民間有料衛星放送局として発足した（株）WOWOW（田中晃代表取締役社長）は、現在東経 110 度の「BS-4a」衛星で「WOWOW プライム（選りすぐりの番組をそろえたメーンチャンネル）」「WOWOW ライブ（ライブイベントの専門チャンネルで、12 月 31 日午後 2 時から葉加瀬太郎コンサートツアー2023 を生中継の予定）」「WOWOW シネマ（洋画、邦画、名画専門チャンネル）」「WOWOW プラス」「WOWOW 4K」の 5 チャンネルの放送を行い、10 月末時点で累計正味加入者数 2,494,741 を獲得している。辰巳放送センターは、これらの多種多彩な番組を制作・配信している拠点だ。

今回案内してもらったのは、同センターに設置されている「A スタジオ」「A スタジオ サブ」「回線センター」「収録センター」「2K マスターコントロールルーム」「4K マスターコントロールルーム」「WOWOW オンデマンド配信センター」「オムニクロス スタジオ」であった。

中でも最も興味深かったのは、「3D オーディオ制作とフォーマット検証のために設置した」という「オムニクロス スタジオ」である。説明にあたった入交英雄技術局エグゼクティブクリエーターによれば、「オムニクロス スタジオは Auro 3D、ドルビーアトモス、22.2 サラウンドなどのイマーシブ 3D オーディオを、各メーカーが推奨する最適なスピーカーフォーマットで聴けるように設計されている」という。

案内されたスタジオに設置されているスピーカーを数えてみたら、水平方向に 11 個、天井に 17 個、床レベルに 3 個、サブウーファーが 2 個、総数 33 個という見事な配列であった。

スタジオの設計業者とスピーカーのメーカーについて問い合わせたら「設計は、日本音響エンジニアリングにお願いした。スピーカーは、ドイツのムジークエレクトロニクガイティン（Musikelectronic Geithain）社（以下ムジーク）製のアクティブ型を導入している」との回答であった。

ドイツを本拠とするムジーク社のモニタースピーカーは、ドイツ国営放送、ベルリン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場などにも採用されていることで知られる。日本国内でもプロフェッショナルなレコーディングスタジオやマスタリングスタジオなどで活用されている。

今回の訪問で、実際に「オムニクロス スタジオ」ならではの没入型 3D オーディオをいろいろと視聴させてもらったが、そのハイライトは、ジャズ・フュージョンピアニストのボブ ジェイムス（Bob James）が 2020 年に来日して直々に検聴したという同氏が手掛けた Auro-3D フォーマットのジャズアルバム「Feel Like Making Live!」であった。このアルバムで演奏しているのは、ボブジェイムス（ピアノ）、マイケル・パラッツオーロ（ベース）、ジェームス・アドキンス（ドラム）のトリオである。

この他、厳かな教会でのコンサートや屋外での花火大会など、環境の大きく異なる場での数々のトライアルの視聴を楽しむことができた。

辰巳放送センターには、「A スタジオ」「B スタジオ」「C スタジオ」と呼ばれる 3 つのスタジオが配置されている。今回案内し

写真 1　WOWOW 辰巳放送センターでは、5 チャンネルの有料番組の制作・配信を行っている。

写真 2　オムニクロス スタジオには、ドイツの Musikelectronic Geithain 社製のアクティブ型スピーカーが 33 台設置されていた。

写真 3　辰巳放送センター「A スタジオ」には、ソニーの「HDC2000」マルチフォーマットカメラが 3 台配置されていた。

てもらったのは「A スタジオ」で、このスタジオにはソニーの「HDC2000」マルチフォーマットカメラが 3 台配置されていた。2/3 型 220 万画素広帯域 CCD と高性能 LSI を搭載し、3Gbps の光ファイバー伝送を実現する大型スタジオカメラである。

隣接する「A スタジオサブ」に装備されている主要放送機器は、パナソニック製大型ビデオスイッチャー、ソニーのカメラコントロールユニットなどであった。ビデオスイッチャーの型式については、特に説明がなかったが「AV-HS」シリーズの上位機種と思われた。

「回線センター」は、NEC 製の映像回線調整システムでまとまっており、一方の「収録センター」には、光ディスクビデオシステム「XHDCAM」が 12 台導入されておりソニー色が濃かった。

写真 4 「A スタジオサブ」には、パナソニック製大型ビデオスイッチャー、ソニーのカメラコントロールユニットなどが装備されていた。

写真 5 東芝が設営したという 2K マスターコントロールルーム。

写真 6 NEC が設営したという 4K マスターコントロールルーム。

放送を支える最後の砦と言われる「マスターコントロール」は 2K 放送用が東芝社製で、4K 用は NEC 社製であった。2021 年 3 月 1 日に開局した「WOWOW 4K チャンネル」では、懐かしい名作の 4K リマスター作品や 4K 版初放送番組を楽しめる「4K シアター」、4K オリジナルドラマや連続ドラマを主体にした「ドラマチック 4K」、厳選した 4K 番組を集めた「4K セレクション」の 3 本柱で放送を行っているという。

「WOWOW オンデマンド配信センター」では、放送番組の同時配信、見逃し配信、スポーツなどのライブ配信を取り扱っている。テレビはもちろんのこと、スマートフォン、パソコン、タブレット、プロジェクターなどの機器にも対応する番組配信サービスである。同センターでは、「様々な受信機器で、約 200 本のオリジナルドラマ、最新のアニメ、注目の海外ドラマなどを楽しむことができる」と PR に余念がなかった。また、進化する「WOWOW オンデマンド」の特色として、「ジャンルのカテゴリがリニューアルされ番組が探しやすくなった」「ダウンロード機能を搭載しており、あらかじめダウンロードしておくとインターネット接続なしでも視聴が可能になった」「ピクチャーインピクチャー機能が追加され、再生中の動画を視聴しながら、他の操作ができる」などの点を挙げていた。

残念だったのは、同社自慢の中継車が大阪で開催中のイベント収録のため出払っており見学が実現しなかった。担当者によれば、今年最も活躍したのは、8 月 19 日、20 日に幕張メッセで開催された「Summer Sonic 2023」のライブ中継とのことであった。特に説明はなかったが、12 月 14 日に開催される「生中継！矢沢永吉 Concert Tour 2023　150 回記念スペシャル」でも活躍するものと思われた。

最後に余談になるが、WOWOW は、アジア最大級の映画の祭典「第 36 回東京国際映画祭」（10 月 23 日～ 11 月 1 日、日比谷、有楽町、丸の内、銀座地区で開催）で「連続ドラマ W OZU ～小津安二郎が描いた物語～」を特別上映して注目を集めた。

小津監督がメガホンを取った初期サイレント映画 6 作品を、城定秀夫や松本優作など気鋭の映画監督たちが現代設定に置き換え、オムニバスドラマとしてリメークした作品である。「World Wide Watching」を意味しているという WOWOW らしくドラマ分野で存在感をアピールしたと言ってよい。

また、10 月にはローカル 5G を使ったリモートプロダクションの実証実験を行って関心を呼んだ。WOWOW と TBS テレビが共同開発したシステムをソニーワイヤレスコミュニケーションズが「Summer Sonic 2023」（幕張メッセで開催）のステージ用に設置したローカル 5G を使って運用したものである。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研　代表
メディア・ジャーナリスト